

明確かつ有機的に機能する 人事システム「ヒデマイスター」

IMC 株式会社

板金・製缶複合加工を得意とするIMC

IMC株式会社は、1.0×22mmの板金と製缶の複合加工技術を得意とする。2mmを超える長さ寸法に対する許容差は0.5mm。技術要求の高い仕事を積み重ねる一方、顧客との共同開発にも力を注いでいる。

同社は現会長である並木英彬氏が1967年に創業。以来、順調に業績を伸ばしてきたが、98年2月に主要取引先が倒産し、一気に経営危機へと追い込まれた。



試作から量産まで対応。

そんななか、大手メーカーを経て家業に戻っていた俊一郎氏（現社長）が専務に就任し、経営再建へと乗り出した

人事システムを導入した 経営改革

入社以来、自社を成長させるための仕組みの重要性を強く感じていた並木社長のなかには、経営をシステムの導入で行ってこそ、進化、発展できるとの信念が形成されていた。とりわけ重要になるのが「人づくり」。能力主義をベースにした明確かつ有機的に機能する人事システムの導入を早くから考えていた。当時は年功制が導入されており、能力主義を謳った人事システムの導入は、社員が拒否反応を起こすことが予想された。

そこで、システムという概念に触れさせるため、98年10月にISO9001の取得にとりかかった。周辺企業や既存の顧客の反応は冷ややかであったが、目的はあくま

でもシステムを導入した経営改革であり、そのための手段にすぎなかった。

「ヒデマイスター」の導入

2000年2月のISO取得を迫るよう翌年4月から人事システムの導入を敢行した。この人事システムは、創業者である父の名「英二千人にすぐれた」と、名人・巨匠という意味の「マイスター」を組み合わせ「ヒデマイスター」と命名された。



若手社員とのOJT。

各業務プロセスの資格等級に対して職務・職能資格基準を定め、各人の業績、能力、意欲態度を評価期間の行動事実にもとづいて5段階評価で行う人事評価システムと、各人の能力を開発するための能力開発システムからなる。能力開発は主にOJTが中心だが、外部の教育機関なども利用している。

有機的に機能させるシステムこそが一番重要

その後、人員の増減を繰り返すなか、公正な評価と、体系的な能力開発による社員の實力形成が花開いていった。いまでは「ヒデマイスター」を導入した当時に入社した社員が、IMCの中核となる人材へと成長をとげ、また若手社員の多くが重要な仕事に抜擢されている。

「人を育てる。技術をつける。効率をあげる。すべて大事だが、これを総合的かつ有機的に機能させるシステムこそが一番重要。これこそが経営者の仕事」と、並木社長は熱く語ってくれた。

編集部／山崎洋揮



Company Profile

IMC 株式会社

所在地：茨城県古河市東山田2635-1
TEL:0280-78-1710 FAX:0280-78-2373

担当者：代表取締役 並木 俊一郎

事業内容：板金及び製缶加工、機械加工や各種鍍金処理も含む製品の製造

エミダス会社・工場詳細情報：

<http://www.nc-net.or.jp/emidas/gaiyou.php?68975>

※「エミダス工場検索」のキーワード検索「IMC」で検索できます。

本誌付録の「ザ・日本製造業パワーアップCD-ROM」にて、同社の工場技術動画をご紹介します！